

被災地へのボランティア支援の高速道路料金 無料化措置 9月30日まで延長実現

能登半島地震に伴う災害被災地への、災害ボランティア車両を対象とした高速道路の無料化措置が、再度の延長(3月31日までが、6月30日までに、さらに今回9月30日まで)になりました。

この延長措置実現のために、党国会議員団の国土交通省への要請と、佐藤まさゆき県議による、国土交通省へ「県として」要請をしてほしい旨の交渉など、この間の取り組みが実ったものです。

ボランティアの方で、車両で来られる方は、それぞれ出発の高速道路公団のホームページから、「能登半島地震災害ボランティア」と検索していただいて、「災害ボランティア車両の高速道路の無料措置について」のページの「災害ボランティア車両高速道路通行証明書発行システム」の、必要事項をフォームから記入して、印刷して活用ください。入力・活用方法、その他はQ&Aで確認してください。不明な点があれば問い合わせてください。

被災者の方の個別の要 求にこたえる活動

6月13日、穴水町高齢者の依頼で、①災害廃棄物の搬出・運搬作業(軽トラックで3回分)、自宅から穴水の災害廃棄物置き場まで片道30分。②仏間の写真(10枚近く)を外す作業。③土蔵の中のタンス搬出と運搬、併せて母屋から衣装ケースとタンスを土蔵に搬入。④母屋のテレビ台を仮設住宅へ搬入。依頼者のお話では、穴水町災害ボランティアは、金土日しかしてくれないので助かると感謝されました。

仮設住宅を訪問し、支 援物資届けと聞き取り

6月15日、神奈川のIさん、新潟のKさん、福島のOさんで輪島市三井地域交流広場の仮設に物品支援と要望聞き取りに行きました。要望では①電気代が心配でエアコンのスイッチを入れないで日中過ごしている。電気代の補助をしてほしい。②仮設の台所は狭くて多人数の食事をつくるのは大変。

③三井から輪島市内へ行くバスが1日4本しか出ていない。免許返納して車も処分したので、通院や買い物に行くのが大変と(交通手段の確保)。④生活再建支援制度の奥能登版上乘せ制度(石川県地域福祉推進支援臨時特別給付金)が活用できそうな人にもこの制度が伝わっていない。

・狭い仮設で1日過ごすのが減入るので、畑仕事や被災家屋の後片付けをしていると。

「訪問活動後の振り返りの会」で、福島元県議(宮城県)より、「災害交付金を活用して、生活の足のない方の仮設住宅を回る巡回バスを実施させることができると思う。宮城県の一部地域では実現させてきた」との意見。



被災された方のお宅の 軒下修理の依頼

羽咋市のFさん宅は被災されて、軒下が壊れて、共同支援センターに、修理の依頼が入りました。金沢市のお住いの大工のKさんが、16日大工道具・資材をもって駆けつけてくれて修理が完了、大変感謝されました。

穴水支援センター

穴水町大町二56

奥能登の支援の拠点に計画しています。
センター本部へ問い合わせください。

